

アプリ「Trash Lens」を活用した衣類 リペア・リユース促進事業に関する実施報告書

Trash Lens株式会社

2026年3月

Trash Lensとは？

2

ゴミをスマホにかざすだけで

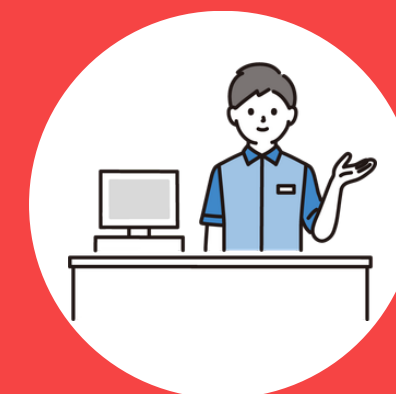
捨て方や活用法がわかるスマホアプリです



活用法がわかる！



捨て方



売り方



活用法

いらないものをスマホに写せば…

かざして分かることいろいろ！



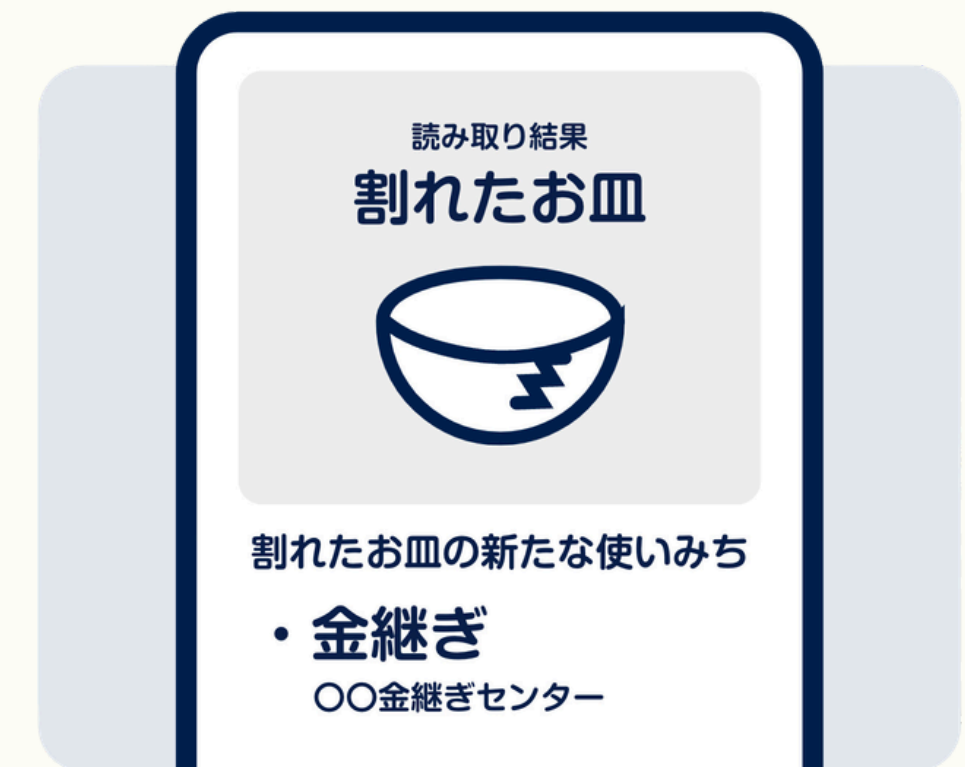
捨て方がわかる

スマホカメラでいらないものをかざすだけで、捨て方を教えてくれます。もう、難しい冊子と格闘する必要はありません。



売り方がわかる

どこのお店だったら高く売れるのか、すぐ引き取ってくれそうなお店はどこなのか、分かりやすく一覧で表示します。



活用法がわかる

捨て方だけではなく、新たな活用の方法が分かります。割れてしまったお皿も、知らなかったやり方で治ったり、新たなお皿に生まれ変わったりするかもしれません。

背景：深刻な衣類ロス問題

4

ファッション産業における大量生産・大量消費・大量廃棄は、今や深刻な世界的課題となっています。洋服を一着製造するプロセスでは、原料となる植物の栽培や染色に大量の水が使われるだけでなく、CO2の排出や余剰生地などの廃棄物も生じます。衣類の多くを海外からの輸入に依存している日本においては、こうした多大な環境負荷が見えにくいのが現状です。

国内に目を向けると、日本では一人当たり年間に約12枚の服を手放していますが、そのうち約68%が焼却・埋め立て処分されています。また、所有する服のうち年間一度も着用されない「眠っている服」は約35枚にのぼり、手放された衣類が十分に活用されているとは言えません。

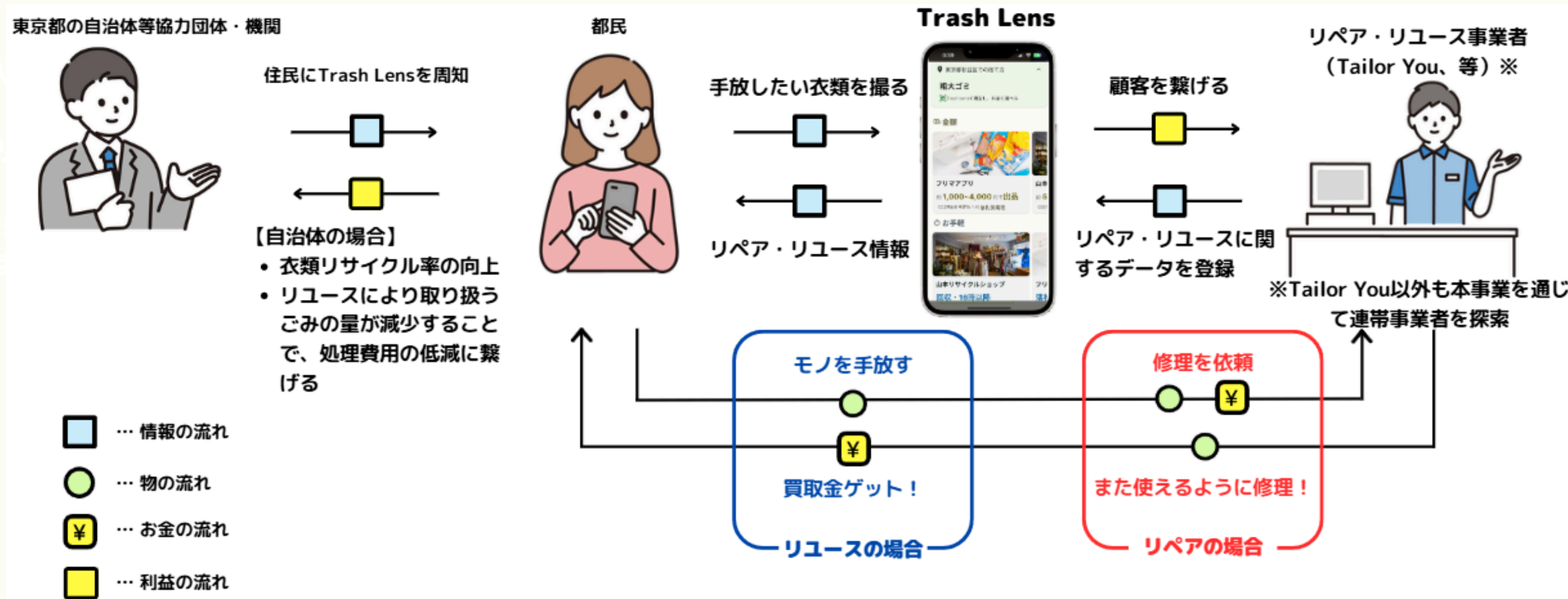
消費者の「リユースしたい」という潜在的なニーズは高いものの、実際の行動には「手間がかかる」「方法がわからない」という大きな壁が存在します。今後は衣服の生産から着用、廃棄に至るまで環境負荷を考慮した「サステナブル（持続可能）なファッション」への転換と、私たち一人ひとりの行動の変化が求められています。

出典：環境省「SUSTAINABLE FASHION」

https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/

目的：アプリを通じたリペア・リユースを促進

本事業では、ゴミ分別アプリ「Trash Lens」の活用を通じて、東京都内における衣類のリペア（修繕）やリユース（再利用）の実践を促進することを目的としました。これにより、これまで「ごみ」となっていた衣類を資源として循環させ、サーキュラーエコノミーに貢献することを目指しました。



目的の達成のため、以下1～4の取組を本事業にて実施しました。

【取組1】 アプリ「Trash Lens」内に新たなリペア・リユースの動線を構築

【取組2】 「Trash Lens」の普及と利用促進

【取組3】 新たなリペア・リユースフローの有効性検証

【取組4】 連携リペア・リユース事業者の拡大

【取組1】 新たなリペア・リユース動線を構築

7

衣類をアプリで判別し、連携事業者のリペアやリユースサービスへ案内する機能を実装しました。
(2025年9月実装完了)

実装した機能の具体的なフロー（4ステップ）：

- 1.衣類を撮影 アプリのカメラ機能を使用して、対象となる衣類を撮影します。
- 2.衣類を判別 アプリが撮影された衣類の種類（例：スーツ）を自動判別し、自治体のルールに基づいたごみの捨て方などを表示します。
- 3.リペア情報を表示（新規実装機能） 判別結果の画面に「新しい価値」というセクションが追加され、連携事業者が提供するリペアやリメイクサービス（例：TailorYou）の案内バナーが表示されます。
- 4.リペアサービスへの遷移（新規実装機能） 案内バナーをタップすると詳細画面が開き、設置された遷移ボタンから実際のリペアサービスの窓口へとスムーズに案内されます。

【取組1】 新たなリペア・リユース動線を構築

7

衣類をアプリで判別し、連携事業者のリペアやリユースサービスへ案内する機能を実装しました。
(2025年9月実装完了)



衣類を撮影



衣類を判別



リペア情報を表示



リペアサービスへの遷移

【取組2】 「Trash Lens」の普及と利用促進

8

東京都内でのアプリ「Trash Lens」の認知度向上を目的として以下のような展示会出展等の施策を実施しました。

未来のゴミ分別アプリ「Trash Lens」、東
京都「サーキュラーエコノミーの実現に向
けた社会実装化...

🕒 2025年10月15日 15時08分

Trash Lens株式会社

PR timesにてプレスリリースを発表（2025/10/15）

URL：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000007.000139952.html>



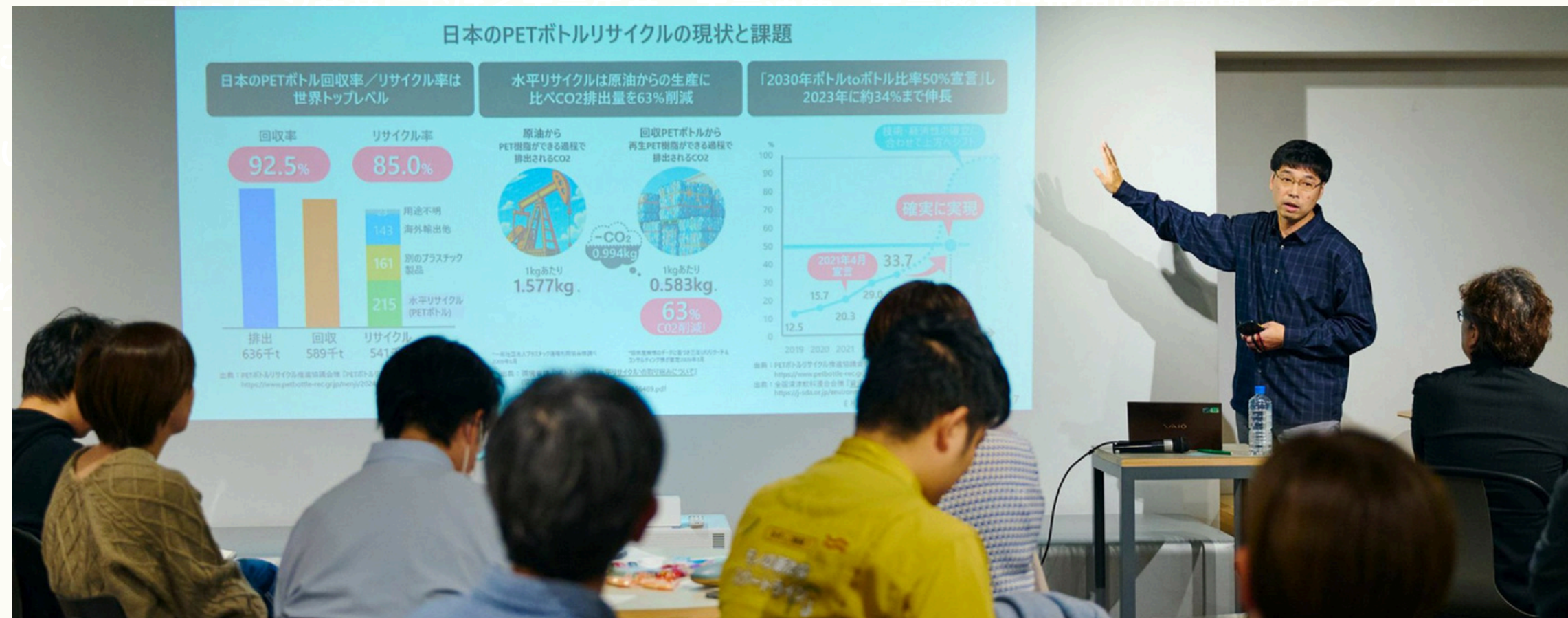
日本で
消費者
本事業
目的と

衣服
す。
とを
ノミ

【取組2】 「Trash Lens」の普及と利用促進

東京都内でのアプリ「Trash Lens」の認知度向上を目的として以下のような展示会出展等の施策を実施しました。

未来共創サロン Green x AI x Talk～環境に配慮したまちのつくりかた、みんなの小さなアクションに向けたワークショップに参加（2025年11月7日）



イベント風景

【取組2】 「Trash Lens」の普及と利用促進

東京都内でのアプリ「Trash Lens」の認知度向上を目的として以下のような展示会出展等の施策を実施しました。

東京都環境局主催事業にてブースを出展
(2026/1/24-25)



イベントロゴ



Trash Lensブースでの展示風景

【取組2】 「Trash Lens」の普及と利用促進

東京都内でのアプリ「Trash Lens」の認知度向上を目的として以下のような展示会出展等の施策を実施しました。

“1000着の「こうだったらいいのに」”展を共催。アプリ訴求を実施（2026/2/7）



イベント告知ポスター



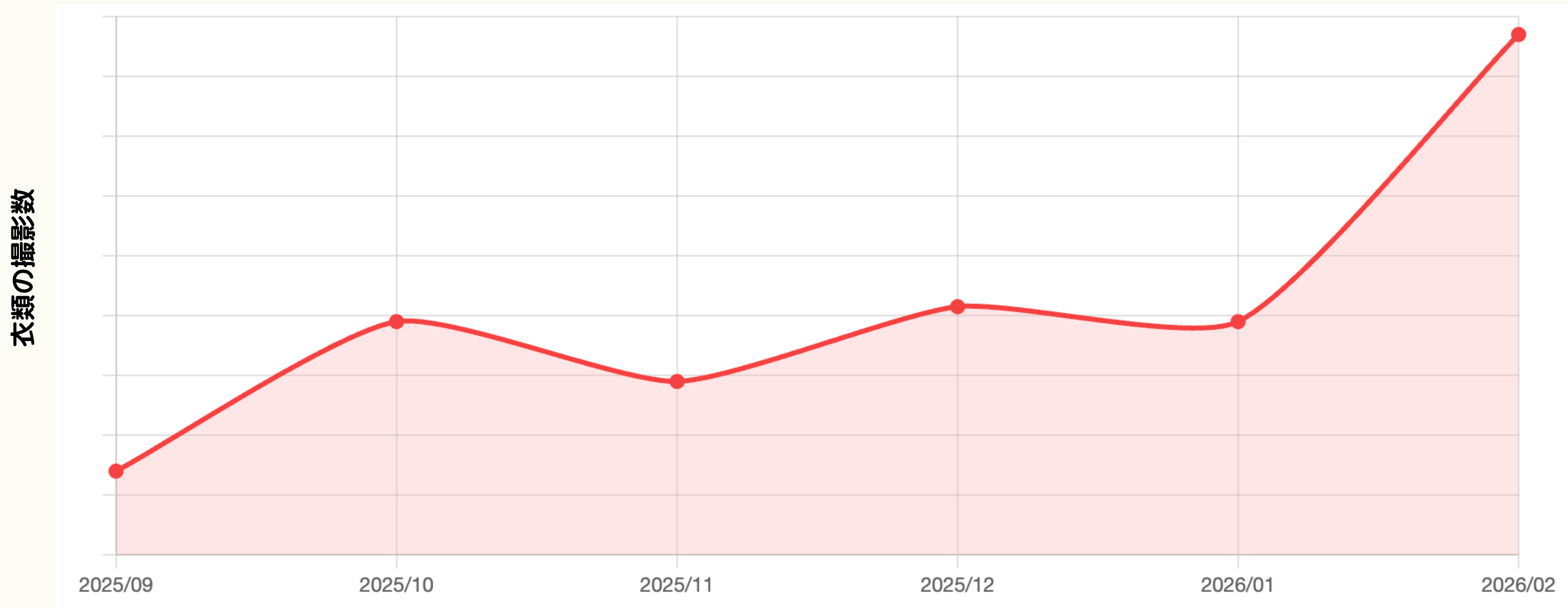
イベント風景



リペア推進のためのイベントポスター
(リペア例の提示)

【取組3】 リペア・リユースフローの有効性検証

本事業の開始後、アプリ「Trash Lens」を通じて撮影された衣類数の推移を以下に示す。本取組み等により、衣類の撮影数は事業開始時の9月から終了時の2月にかけて、約6倍に増加しました。



※具体的な撮影数は非公表

【取組 4】 連携リペア・リユース事業者の拡大

11

本事業開始後、新たに「株式会社FASHION X」に連携事業者として参画いただき、「リフォームスタジオ株式会社」と連携に向けて協議を進めました。



TailorYou
(事業開始時より連携)

FASHION X

株式会社FASHION X
(2025/10より連携)

衣類等の修繕・リメイクサービスを展
開する業者と
2025/10より連携協議

課題

構築したリペア・リユースへの新たな動線や、拡大した連携事業者のネットワークを最大限に活かし、地域社会における資源循環のインパクトをさらに大きなものにしていくためには、アプリ「Trash Lens」の利用者層をより一層拡大していくことが今後の課題となります。

今後の展望

これまでの広報活動（プレスリリースやイベント出展など）で得られた知見を基に、より幅広い層へ向けたアプローチを強化します。アプリの利便性や「捨てる前にかざす」という新しい体験の価値を積極的に訴求し、ユーザー数の飛躍的な増加と日常的な利用習慣の定着を目指すことで、サーキュラーエコノミーの実現を推進していきます。